

MLデータセット生成システム: データ出力

全登録データのスプレッドシート化 → NIMS Standard SpreadSheet 最小構成要素はセル:

* <u>国</u>目名

· 解 * * 单位

1サンプル 1ライン、ただし、セル内の木構造も可能。

システムからの同一項目のデータ回収

項目間関係を辞書記述し、自動的に辞書解析、項目変換を行う *

頃目間関係の記述形式も同一のスプレッドシート形式 *

● 何をInput/Outputにするかはユーザーの決定

MLデータセット生成システム: 過去のサービス構成

gitlab

* gitlab-ci-yml

Mathematica

• td

Jupyterhub

• gpg

当初は Mathematicaをメイン、tqを補助的に利用する方針。 コーザーはgitとgpgがあればよい。

現状の方針

MLデータセット生成システム: 現状の方針

- 解析クラスタ中心
- * 解析クラスタで tq を動作させることを第一目標とする
- * NIMS Standard SpreadSheetを出力する目的は変わらない

tqをメイン、ソルバー (Mathematica等) はユーザー環境を利用

- 署名や信頼性確保は他のサブシステムが行う
- データ形式定義、データ、辞書をすべて同一形式で記述



td: 脚头

= 知識構造(グラフ)を記述可能であること 辞書構造

データ構造(木)を記述可能であること

td: 文法

< tq >:: # <: num :> \$ # <: num :> \$ <: alp :> \$ < name > [<: num :>] (< tq >,...)

e.g. #1\$#2\$Op\$Name(#2Name2[2]) #1\$#2\$Op\$Name@#2Name2@#2Name2(#2Name2,[2]@(Length,Weight))

td: 頃参照

被参照部バインド表現	\$#1f	(\$#1@#1,#1)	\$#1@#1g(#1g)	#1f(\$#1g@#1f)
被参照部		#1	#19	#1f
参照部	\$#1	\$#1	\$#1	\$#1
表現	\$#1f	(\$#1,#1)	\$#1f(#1g)	#1f(\$#1g)

tq: データバインド

データバインド表現	[1]@(L) [2]@(L,W) [2]([2]@(L,W,22,3)) H1[2](H2[2]@(L,W,22,3))	
データ	L, W, 22, 3, 21, 5 L, W, 22, 3, 21, 5 L, W, 22, 3, 21, 5 L, W, 22, 3, 21, 5	
表現	[1] [2] [2]([2]) H1[2](H2[2])	

tq: 頂参照とデータバインドを使ったデータの再構成

```
(Length, Quantity(1,mm)), (Weight, Quantity(2,kg))), (Length, Quantity(322,mm)), (Weight, Quantity(4,kg))), (Length, Quantity(5,mm)), (Weight, Quantity(68,kg)))
データ: Length,Weight,mm,kg,1,2 322,4,5,68
                                                                                                                   出力形式定義: $PI$($#1,Quantity($#4,$#2))
                                                       入力形式定義: (#1[2],#2[2],[3](#4[2]))
```

tq: トリプル表現

	P(Arrow)	S(Dom)	O(Cod)
P(S,O)	Д.	S	0
(S(\$#1P), #1O)	۵	S	0
S(\$#1P) / (S(\$#1P),)	۵	S	/無仇〉
S(/無仇〉	S	0
	/無小	〈無仏〉	<無仇>

tq: トリプルと頃参照を使ったグラフ表現

\$G\$((<オブジェクトリスト>),(<トリプルリスト>))

表現	グラフ構造	隣接行列
((#1A,#2B,#3C), (f(\$#1,\$#2), g(\$#2,\$#3)))	A B G	,,2,3,,,[:f:6],7,8,,,, ,,,,,,[6->:\$#1:7->2],,,,, ,,,,,,,[6->:\$#2:8->3],,,, ,,,3,4,,,,,[:g:9],10,11, ,,,,,,,,,[9->:\$#2:10->3],,
((#1A,#2B,#3C), ((\$#1,\$#2), (\$#1,\$#3), (\$#2,\$#1), (\$#2,\$#3), (\$#3,\$#1), (\$#3,\$#1), (\$#3,\$#2)))		<pre>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</pre>

:d: 辞書表現

グラフ: \$G\$((<オブジェクトリスト>),(<トリプルリスト>)) ↓そのまま!! ただし、辞書トリプルのSとOには木構造を許す 辞書: \$D\$((<オブジェクトリスト>),(<トリプルリスト>))

e.g. ((#1A,#2B,#3C),(f(\$#1,\$#2),\$X\$near(\$#2,\$#3), \$def\$(<u>f</u>,(<u>(a,b),\$eq\$(a,b))</u>),...)) (#1A,#2B,#3C),(f(\$#1,\$#2),\$X\$near(\$#2,\$#3), \$def\$(<u>f</u>,((a,b),\$eq\$(a,\$pow\$(b,2)))),...))

td: 辞書表現(圈)

e.g. $f: A \rightarrow B :: \$arrow\$(f(A),B)$ $g: B \rightarrow C :: \$arrow\$(g(B),C)$ $g \circ f: A \rightarrow C :: \$arrow\$(g(f(A)),C)$

開発状況: 実装済み部分

・ 木構造パーサー
 ・ グラフ構造パーサー(ラベルによる項参照)
 ・ データバインド
 ・ データリストの内積化
 ・ アンパック(木構造の平坦化)
 ・ クオーティング
 ・ しテラーイズ(オペレーション回避)